

ビヨンドトゥモロー スプリングプログラム2013 報告書



2013年3月15日～3月18日

写真提供: 佐藤晃(大学スカラシップ・プログラム参加者)

開催場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター
主催: 一般財団法人 教育支援グローバル基金
支援団体: 公益財団法人 東日本大震災復興支援財団

みんなで
がんばろう
日本 ●

BEYOND
Tomorrow

震災から2年。故郷への想いを胸に、仲間と築く、自分の未来。

写真提供: 遠藤見倫(大学スカラシップ・プログラム参加者)



震災から2年



共に歩む仲間



未来への決意

東北出身であるという共通項を持つ、高い意識を持つ仲間と真剣に話をする、それが本当に特別な非日常であることに気づかされました。



私たちは、それぞれの道で、それぞれに夢を追いながらも、志を共にする仲間として集うことのできる仲間でありたいと思います。



撮影：遠藤見倫(大学スカラシップ・プログラム参加者)

「ビヨントゥモロー」は、東日本大震災により被災した地域の若者を対象としたリーダーシップ教育支援事業です

目次

1.	スペシャルメッセージ	05
2.	プログラム概要	07
	I. 4つのアプローチ	07
	II. スケジュール	08
	III. 参加学生紹介	09
3.	スプリングプログラムハイライト	11
	I. オープニングセッション	11
	II. インタビュー「はたちの頃」	12
	III. ディスカッション「東北のためのアクション」	13
	IV. チームビルディング	14
	V. メンターディナー	15
	VI. 閉会式	16
	VII. リフレクション	17
4.	参加学生	19
5.	合唱	24
6.	協力団体	25
7.	ビヨントゥモローとは	26

ビヨンドトゥモロー スプリングプログラム2013 概要

主催

一般財団法人 教育支援グローバル基金

支援団体

公益財団法人 東日本大震災復興支援財団

日時

2013年3月15日(金)～18日(月)

参加者

東日本大震災で被災した東北各地出身で、将来、グローバルに活躍するリーダーとなることを志す高校生・大学生29名(海外の高校に留学中の者含む)。全員、ビヨンドトゥモローの奨学金事業の参加者。

趣旨

本プログラムは、参加者がビヨンドトゥモローの趣旨と目的を理解し、東北発のリーダーとしてこれからの学生生活において何を達成すべきかを具体化し、また、参加学生たちが団結し、東北の未来のために貢献するための信頼を築くことを目的として開催されました。



スペシャルメッセージ

安倍昭恵首相夫人



“東日本大震災という未曾有の惨事の中、生きることができ、このプログラムに参加するというチャンスに恵まれた皆さんには、大きな使命があると思っています”

学生の皆さん

今回、ビヨンドトゥモロー スプリングプログラム2013のオープニングセッションに参加して皆さんの話を伺い、皆さんの頑張る姿に、大きな感銘を受けました。

東日本大震災という未曾有の惨事の中、生きることができ、このプログラムに参加するというチャンスに恵まれた皆さんには、大きな使命があると思っています。

本当に辛い体験をした皆さんは、世の中のためになれる人たちです。このプログラムに来たくても来られなかった人たちがいます。その人たちの分もたくさんのことを吸収して、被災地のため、日本のために働ける人になってください。多くの方々に助けってもらった分、いつかそれを返せる人になってください。

私たち日本人は、震災をきっかけに多くのことを学びました。震災がなかったならば出会うことがなかった人との出会いもあるかもしれません。

いつか振り返って、あの時これだけ辛いことがあったから今の自分があると言えるように成長してくださることを願っています。

スペシャルメッセージ

小泉進次郎

衆議院議員



“ビヨンドトゥモローに集う皆さんには、仲間として、悲しみぬく時間を共にし、絆と信頼を深めていてもらいたい”

ビヨンドトゥモローの学生の皆さん

2年前の震災で、皆さんは、想像しなかった悲しみに見舞われました。その悲しみの中で、ビヨンドトゥモローの学生の皆さんが前を向き、明るい姿勢を失わないことに、私は驚かされています。

辛い時、悲しい時、前を向かなくてはならないと思う気持ちがある一方で、悲しいことがあった時に、きちんと悲しみぬく時間を持つことも大切なことです。そしてビヨンドトゥモローに集う皆さんには、仲間として、悲しみぬく時間を共にし、絆と信頼を深めていてもらいたいと思います。

これからの長い人生の中で、皆さんは、進学や就職と、多くの選択と決断をせまられて生きていくことになるでしょう。時には間違った選択をすることもあるかもしれません。しかし、震災という困難を乗り越えた皆さんであれば、それを糧にして、次に進んでいってくれると信じています。そして、その過程では、仲間として、お互いを支えあっていてください。

これから復興には長い道のりがあり、解決に長期間要する課題もあるかもしれません。でも、私たちは、復興を見届けるその時まで責任を持てる世代です。私は、政治に希望を持てるということを示すためにも、これからも継続して、東北を応援していきたいと思っています。

3泊4日の合宿形式のプログラムでは、東北出身の若い世代として、自分たちに何ができるのかを考えました。

プログラム概要

1. 東北発の自分たちだからこそ果たせる、東北のための役割
2. 学生生活を通して実現できる、アクションプラン

上記2点をまとめるに当たり、本プログラムは以下の4つのアプローチを参加学生に提供しました。

ディスカッション

東日本大震災という逆境を乗り越えて、リーダーとなるべく立ち上がろうという志を共にする学生が、考えを共有し、団結するために、ディスカッションを実施。



インタビュー「はたちの頃」

各界で活躍するリーダーにインタビューを行い、大学生の時期にどんな活動を行うべきか考える。



メンターとの対話

各界で活躍するリーダーたちが『メンター：良き助言者』となり、学生の将来の夢実現に向けて対話を通じてサポート。



チームビルディング

学生が主体となって企画したキャンプ開催を通し、参加者同志の絆を深め、チームが一体となる機会を提供。



スケジュール

プログラム概要

3月15日(金)

12:00 - 12:45 オープニングセッション(ゲスト: 安倍昭恵首相夫人)
12:45 - 14:00 オリエンテーション・アイスブレイキング
14:00 - 15:00 スピーカーセッション「はたちの頃①」
宮城治男 NPO法人ETIC. 代表理事
ビヨンドトゥモローとは・体験共有・これまでの活動
15:00 - 16:00 ディスカッション「東北発のリーダーとして、今すべきこと」
16:20 - 17:30 合唱練習・門出の言葉練習
17:30 - 18:00 夕食 & 東京ツアー
18:00 - 21:30

3月16日(土)

7:00 - 8:00 朝食
9:00 - 11:25 ダイアログ・イン・ザ・ダーク
暗闇の中で、アクティビティを通しての信頼構築、震災経験の共有
11:25 - 12:30 昼食
13:30 - 16:30 キャンプ場への移動・夕食買い出し
16:30 - 18:30 夕食準備
18:30 - 20:00 夕食・片づけ
21:00 - 23:00 ゲーム大会
23:00 - 24:00 ディスカッション

3月17日(日)

8:00 - 9:00 朝食
9:00 - 10:00 ディスカッション「1年後にむけたアクションプラン」
10:00 - 12:45 移動
12:45 - 13:30 昼食
13:30 - 14:00 合唱練習
14:00 - 15:30 スピーカーセッション「はたちの頃②」
荒井優 公益財団法人 東日本大震災復興支援財団 専務理事
ソフトバンク株式会社 社長室
15:30 - 17:00 アクションプラン作成
18:00 - 20:00 メンターディナー(ゲスト: 小泉進次郎衆議院議員)
20:30 - 22:00 合唱練習・プレゼンテーション準備

3月18日(月)

8:00 - 9:00 朝食 (Eggs'N Things)
10:00 - 11:00 リハーサル
11:00 - 13:00 閉会式
13:30 解散



ビヨントゥモローは、東日本大震災という困難を経験した若者こそ、今後、世界や日本、そして東北復興のために行動するリーダーになる資質を有していると信じています。そのような若者を支援するため、奨学金給付を含む包括的なリーダーシッププログラムを提供しています。ビヨントゥモロー スプリングプログラム2013には、ビヨントゥモローの以下のプログラムに選抜された学生たちが参加しました。



大学スカラーシップ・プログラム(新大学2年生)

東日本大震災に被災しながらも、グローバルな視野を持ち国内外で活躍するリーダーになることを志し、2012年4月～2013年3月に新たに大学・短大・各種学校に進学予定の高校生を対象。返済不要・給付型奨学金提供を含む、包括的なリーダーシッププログラム。小論文・面接により、20名が選抜されました。

東北未来フェローズ・プログラム2013(新大学1年生)

東日本大震災に被災しながらも、グローバルな視野を持ち国内外で活躍するリーダーになることを志し、2013年4月～2014年3月に新たに大学・短大・各種学校に進学予定の高校生を対象。返済不要・給付型奨学金提供を含む、包括的なリーダーシッププログラム。小論文・面接により、13名が選抜されました。



プログラム概要

参加学生紹介

東日本大震災により被災し、困難な状況を経験しながらも、グローバルな視野を持ち国内外で活躍する志をもって前に進もうとする29名の学生が参加しました。

そのうち16名は、2012年からビヨントゥモローの奨学金プログラムに参加しており、残り13名は、2013年に新しくビヨントゥモローの奨学金プログラムに参加することになった新入生です。

参加者一覧

氏名	在籍校	出身校
新大学2年生		
今井友理恵	慶應義塾大学法学部	岩手県立盛岡第一高等学校
遠藤見倫	石巻専修大学経営学部	宮城県石巻北高等学校
小野寺栄	早稲田大学商学部	仙台育英学園高等学校
加藤英介	慶應義塾大学環境情報学部	東陵高等学校
菊池翔太	東北学院大学法学部	岩手県立大船渡高等学校
菊地将大	筑波大学社会・国際学群	岩手県立高田高等学校
倉本知邑	明治薬科大学薬学部	岩手県立盛岡第一高等学校
西城国琳	拓殖大学国際学部	宮城県気仙沼高等学校
佐藤滉	高崎経済大学地域政策学部	岩手県立盛岡第一高等学校
千葉真英	宇都宮大学工学部	岩手県立大船渡高等学校
福田順美	宮城大学看護学部	岩手県立高田高等学校
藤田真平	神奈川大学法学部	神奈川県立岸根高等学校(気仙沼高校から避難)
船越絵稚	早稲田大学文化構想学部	岩手県立宮古高等学校
マンズフィールド・デビッド宥雅	早稲田大学法学部	宮城県仙台第一高等学校
目黒妃呂美	東北公益文科大学公益学部	福島県立相馬東高等学校
新大学1年生		
石川玲央	群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部	福島県立湯本高等学校
小川彩加	Leelanau School (米国)	岩手県立大槌高等学校
菅野英那	早稲田大学商学部	福島県立須賀川桐陽高等学校
北田亜央衣	帝京大学医療技術学部	岩手県立釜石高等学校
木村拓哉	東京大学教養学部	岩手県立盛岡第一高等学校
穀田龍二	東北大学法学部	宮城県気仙沼高等学校
佐久間楓	東北芸術工科大学芸術学部	石巻市立女子高等学校
佐々木沙耶	お茶の水女子大学文教育学部	岩手県立高田高等学校
佐藤主樹	東北大学文学部	岩手県立盛岡第一高等学校
佐藤慎	岩手医科大学医学部	岩手県立大船渡高等学校
高橋亜弓	上智大学外国語学部	仙台白百合学園高等学校
田村葵	福島大学人文社会学群	福島県立相馬高等学校
白河榮	東北大学文学部	福島県立会津学鳳高等学校

高校留学プログラム

菅原彩加

Leysin American School(スイス)

仙台育英学園高等学校

スプリングプログラム ハイライト

オープニングセッション

スプリングプログラム開催にあたり、日本のファーストレディー、安倍昭恵首相夫人が激励に駆けつけ、学生たちが語る将来の夢や被災地の状況に耳を傾けてくださいました。サンドイッチの軽食をとりながら、日本文化の良さや世界への発信のあり方について活発に意見交換をさせていただく機会となり、参加学生たちは、3泊4日のプログラムの冒頭に、気持ちを引き締め、東北発の自分たちならではの役割の認識する機会となりました。

オープニングセッション

安倍昭恵 首相夫人

“このプログラムに来たくても来られなかった人たちがいます。その人たちの分もたくさんのごことを吸収して、被災地のため、日本のために働ける人になってください。多くの方々に助けてもらった分、いつかそれを返せる人になってください”



東京散策ディナー

第一日目の夜は、チーム毎に分かれて、東京各所で賑やかに夕食をとりました。

チームA 中華料理(六本木ヒルズ)

チームB お好み焼き(原宿)

チームC サムギョブサル(大久保)

チームD ピザ(渋谷)



スプリングプログラム ハイライト

インタビュー「はたちの頃」

参加学生がこれからの自分の役割、アクションプランを考えるにあたり、実社会で活躍するリーダーを招き、彼らの年代の頃に何を考え、感じていたかを共有いただきました。二十歳の頃に何をしていたか、そしてそれは今にどうつながっているか、という個人の生き方に直に触れることで、参加学生たちは大学生としての時間をどう過ごすべきか、改めて考えを巡らせました。

これだけ自由で豊かな社会であるにもかかわらず、社会の物差しに自分の人生をあてはめ、生き方を限定するのはもったいないじゃないか。



社会がこうあるべきだというビジョンを投げかければ、お金や権威がなくても、人が動いて、世の中が変わると知ったことがその後の自分のバックボーンになった。

宮城 治男 NPO法人ETIC. 代表理事

1972年生まれ。早稲田大学在学中の93年、学生起業家の全国ネットワーク「ETIC. 学生アントレプレナー連絡会議」を創設、事務局長に就任。全国の大学生に対し、啓蒙活動に取り組む他、ベンチャー企業のスタートアップ等を支援する。その後NPO事業を拡大し、組織名称をETIC.に変更、2000年には特定非営利活動法人化、代表理事に就任。次世代の起業家、リーダーの輩出へ向けて、大学生に対してのキャリアデザイン支援事業やベンチャー企業、NPO等へのインターンシップ事業、大学・学校教育のキャリア教育改革等の事業に取り組む。

「リーダーとはこうあるべき」という概念に縛られるのは、ばかばかしい。自分が自分自身のリーダーになることで楽しく軽やかに生きることができる。

物事を始める時は、「誰とやるか」が大切。単線路線に入り、既得権益を守るのではなく、信頼できる仲間と一緒にあって、何かを成し遂げてほしい。

「一緒にやろう」とよびかけ、自らストーリーを始めていくこと、勇気を奮ってストーリーに入っていくこと。若いうちにたくさん失敗し、怒られ、悲しんで構わない。失敗を恐れるな。

そして自分が主人公にならずとも、何かを成し遂げようとする人のそばにいてあげることで力になるという役割もある。



荒井 優 公益財団法人 東日本大震災復興支援財団 専務理事 ソフトバンク株式会社 社長室

昨年3月22日に孫社長と共に福島入りしたことがきっかけとなり、復興支援のための公益財団設立を担う。現在は、月の半分を福島で過ごす。早稲田大学在学中の1995年に第5回YOSAKOIソーラン祭りの実行委員長を務め、全国行脚を行う。その時に出会った多くの仲間が今回の復興に関わっていることに勇気もらっている。

スプリングプログラム ハイライト

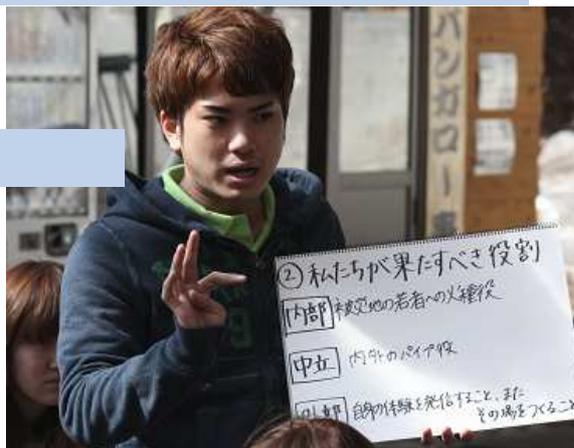
ディスカッション「東北のためのアクション」

参加学生は、これからビヨントゥモローという場を通してリーダーとしての成長を志すにあたり、東北被災地出身の学生だからこそ実現できるアクションプランを考えました。震災から2年が経ち、風化が懸念される一方、山積する復興課題。震災を体験したからこそ語ることができる体験を基に、深夜まで議論を続けました。

震災から2年が経った現在の、東北被災地のニーズ



自分たちだからこそ果たすことのできる役割とは



今後の1年間のアクションプラン



リソースパーソン

参加学生たちによるディスカッションに新たな視点を与え、彼らだけでは成し得ない気づきを可能なものにするために、2名の若手リーダーがリソースパーソンとしてチームに加わり、学生たちに助言を与えました。



石川孔明
NPO法人ETIC. リサーチ事業部 マネジャー

1983年生まれ、愛知県吉良町出身。アラスカにて卓球と狩猟に励み、その後、学業の傍ら海苔網や漁網を販売する事業を立ち上げる。アクセンチュアにてM&A等業務に携わった後、リサーチ部門の立ち上げ担当マネジャーとして、2010年よりNPO法人ETIC.に参画。企業や社会起業家が取り組む課題の調査やインパクト評価、政策提言支援等を担当。



石原昌尚
慶應義塾大学 修士課程

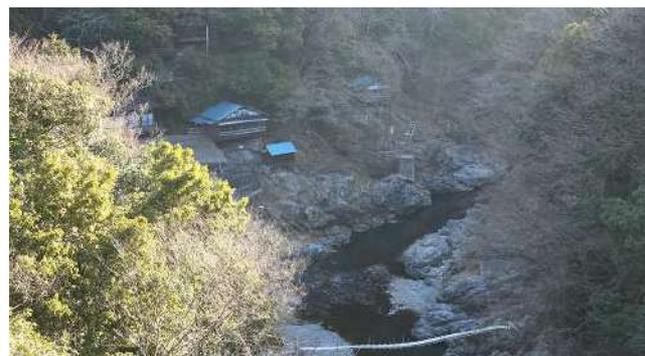
1986年生まれ、沖縄県那覇市出身。慶應義塾大学院理工学研究科を2013年3月に卒業予定。学部生時代には合唱サークルに所属。大学院での研究テーマはヒューマンエラーマネジメント。専門技術を実社会の課題解決に適用させていくためにはどのようにしたらよいかという問題意識から、学術的な場に限らず活動している。

スプリングプログラム
ハイライト

チームビルディング 鳩ノ巣キャンプ

2012年から奨学金プログラムに参加している学生たちと、今年から新たに参加する学生たちが、団結してビヨントゥモローという場を共に構築するメンバーになりたい—2012年から参加している先輩たちの声で、プログラム期間中、1泊2日のキャンプが企画されました。都心から約2時間離れた静かなキャンプ場で、学生たちは、文字通り同じ釜の飯を共にし、ゲームに歓声をあげ、今後共に何を実現したいかを語りました。

キャンプ料理対決



鳩の巣バンガローキャンプ

ビヨントゥモローの学生と、今年から新たに参加する学生たちが、団結してビヨントゥモローという場を共に構築するメンバーになりたい—2012年から参加している先輩たちの声で、プログラム期間中、1泊2日のキャンプが企画されました。都心から約2時間離れた静かなキャンプ場で、学生たちは、文字通り同じ釜の飯を共にし、ゲームに歓声をあげ、今後共に何を実現したいかを語りました。

開催日時 3月10日
開催時間 10:00～16:00
開催場所 東京都武蔵野市三軒茶屋にある「鳩の巣バンガロー」にて開催します。

参加費 無料
参加費は無料です。ただし、交通費や食料費は各自負担となります。

申し込み 3月10日までに申し込みをお願いします。申し込みは「ビヨントゥモロー」のウェブサイトから行うことができます。

お問い合わせ ビヨントゥモロー事務局
TEL: 03-6362-1111
E-mail: info@beyondtomorrow.jp

東北発の仲間として実現したいこと



坪内南 ビヨントゥモロー 理事・事務局長

スプリングプログラム第2回開催にあたり、昨年からの参加者が、後進のために学びの場を企画し、運営する機会を作りたいと思った。他の誰かのために行動すること、人を巻き込んでいくことがリーダーシップなのであれば、ビヨントゥモローの活動の中においても受け身でのではなく、自ら主体的に動き、活動を作っていける人材になってほしいと願い、1泊2日のプログラムをあえて学生に任せた。ヒヤヒヤする瞬間もありながら、彼らが企画するという試み自体がリーダーシップ教育の根幹になったのではないと思う。



(主催学生コメント) 藤田真平 神奈川大学法学部2年

今回、キャンプを行った意味合いとしてスカラー生とフェローズ生とのあいだの距離を縮めて、仲間意識を高めてもらうことができました。準備してる期間はホントに多く悩みました。持ち物は何かが必要か。キャンプ場の設備はどんなものか。など、何かを行い、上に立つという事はいろんな所を配慮しなくてははいけないのだと感じました。企画に文句を言われなかなあ、などと悩む傍ら、企画が成功してスカラーとフェローズがより仲間として認識しあえば良いなあと思いつながら企画していました。実際やってみると、全員が真剣にキャンプに取り組みでくれ、お互いが深く交流できたのではないかと思います。準備を通して、改めてビヨントゥモロー生の人たちは意識が高いと感じました。他のどこに行ってもこんなにレベルの高い人たちはいない、この仲間たちなら今回立てたアクションプランや、将来やりたいこともなんでもできると確信しました。



スプリングプログラム ハイライト

メンターディナー

プログラム最後の夜、特別ゲストをお招きして、メンターディナーが開かれました。東北の状況について伝えたいこと、そして、このプログラムを通して新たに芽生えた想いを伝えた、忘れられない時間になりました。



“私たちは、それぞれの道で、それぞれの夢を追いながらも、東北への想いを共有し、ここに集っています”

船越絵雅

早稲田大学文化構想学部2年（岩手県立宮古高等学校出身）



“これから復興には長い道のりがあり、解決に長期間要する課題もあるかもしれませんが、でも、私たちは、復興を見届けるその時まで責任を持てる世代です”

小泉進次郎 衆議院議員



“ビヨンドトゥモローに来て、リーダーの方々に出会って話を伺い、仲間とディスカッションすることで、東北復興に対する自分の意識が高まるのを感じます”

菅原彩加

Leysin American School 11年（仙台育英学園高等学校出身）

スプリングプログラム ハイライト

閉会式

3泊4日のプログラムは、彼らがまとめたアクションプランを提示する閉会式で締めくくられました。昨年来の参加者が、新たな仲間と共に力を合わせ、未来に向けたアクションプランを力強く発表しました。これから、全員の力を合わせて、ビヨンドトゥモローという場を構築するという誓いと共に、濃密な時間の続いたプログラムが終了しました。

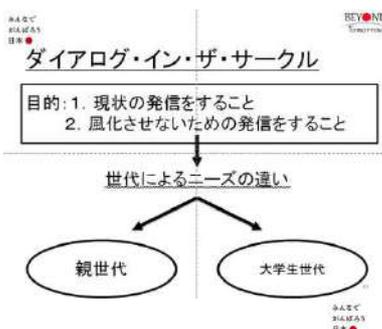
学生スピーチ

今なぜ、震災について発信する必要があるのか。なぜ、このように被災地出身の仲間として集い、対話するのか。時には悩み、時には戸惑うことも経て、学生たちがその胸中を発信しました。



プレゼンテーション

「企業とのコラボ」「地元発の活動」「対話型活動」の3つのテーマにわかれ、学生たちはこれから1年間にわたって実際に取り組みたいアクションプランを作成し、発表しました。



- ★東北以外の地域からのニーズ
被災者の声を聞く機会がない
一度ボランティアで被災地を訪れた人が今の被災地の現状を知らない
- ★発信する場に求められる雰囲気
相手の反応がわかる
参加しやすさ
アットホームの雰囲気
一方的にならない
その場で聞きたいことが聞ける



門出の言葉

東日本大震災から、2年が経ちました。

震災直後のような規模の報道もなくなり、既に風化が始まっているのではないかと、感じる日もあります。

震災直後必ず故郷のために尽力すると誓った想いは、一人の力で実現することが難しいことをこの2年間で知り、自分の力に焦燥感を覚えることもあります。

そんな中、私たちはビヨンドトゥモローに参加し、今日、ここに集う機会をいただきました。

震災後、ビヨンドトゥモローで出会った仲間が、自分にとって家族のような存在になったことを思いかえすと、今回、新しい仲間が加わるのが楽しみでたまりませんでした。

3泊4日にわたるディスカッションでは、東北のために自分たちに何ができるかを考え、語り合いました。

東北出身であるという共通項を持ち、高い意識を持つ仲間と真剣に話をする、それが、本当に特別な非日常であることに気づかされました。

私たちだからこそ伝えられる、人の想いのこもった震災のストーリーを、人に語り継いでいきたいという夢が、芽生えました。

被災地から来た後輩たちの目の輝き、将来へのビジョンに負けてはいられないと思い大きく励まされました。

昨年からはビヨンドトゥモローに参加している先輩たちが家族のように仲が良いことに驚き、羨ましく思い、自分たちもそのような仲間になりたいと思いました。

この春から、新たな1年が始まります。

私たちは、それぞれの道で、それぞれに夢を追いながらも、志を共にする仲間として、集うことのできる仲間でありたいと思います。

辛い時には手をさしのべ、大きな目標の実現のために刺激を与え合い、切磋琢磨できる仲間として、歩き続けます。

スプリングプログラム ハイライト

リフレクション

「ビヨンドトゥモロー」ってなんだろうか。

震災のことをなぜ今も語り続けるのだろうか。

時には涙し、時には笑いあった仲間との時間を振り返り、改めて自問する時間がありました。自分が一番つらかった時に、生きる意味を与えてくれた場だからこそ、後輩たちにもその価値を伝えたい。

改めて、これまでの学びを振り返り、震災から今日までの自分の変化や成長を感じる、特別な空間が生まれました。

仲間たちと震災のことを伝えていくために力を合わせる

プログラム前、私は自分の意見を言ったら否定されるのではないかと考えていました。しかしそんなことはなく私の意見に真摯に受け止めてくれました。それに対する意見も素晴らしいものばかりでした。ビヨンドのみんなが素晴らしい人ばかりで自分も、もっと頑張らなくてはと思いました。自分もみんなのような素敵な人に近づけるようになります。震災に対して人それぞれ考えはあるから、それをそれぞれの表現方法で伝えていくことができたなら大きな力になると思います。

佐久間楓
(東北芸術工科大学芸術学部、石巻市立女子高等学校卒)



一人一人が、それぞれに輝ける場

2013スプリングは、私にとって今までのプログラムのなかで一番楽しくて、一番濃いものでした。ビヨンドトゥモローに参加して以来、こんな自分がいいのかなと悩んだこともあったけれど、今回のプログラムで、皆それぞれでいいんだ、って、自分は自分でいいんだ、って思えました。みんな去年よりずっと、地に足着けて考えられてる気がする。ひとりひとりの違いをお互いの刺激にできるって素敵！やっぱりBT生はすごいよ。負けてられないね。

船越絵雅
(早稲田大学文化構想学部、岩手県立宮古高等学校卒)



自然に意識が高まる空間

あの場にいるだけで、一気に自分の意識が高まるのを身を持って感じました。プログラムに来ると、一人一人が、ビヨンドトゥモローの学生だと気を引き締め、自分の使命を認識することがわかります。ビヨンドトゥモローの学生、という事にとっても誇りを持っています。

小川彩加
(米国・Leelanau School、岩手県立大槌高等学校卒)



プログラムの受け手から、作り手に変わった

1年目は、プログラムに漫然と参加していたが、今回のスプリングプログラムを通して、仲間たちと一緒にビヨンドトゥモローを作っているんだと実感するきっかけになった。ビヨンドトゥモローでの学びをどのように自分の日常に活かしていけるのか、全員が、東北人としての使命に真摯に向かい合っているのか、疑問に思った時期もあった。でも今回のプログラムで、全員の心がひとつになったと感ずることができて、本当の仲間だと感じた。これからは自分が主体的に動いて、場を作れるような人間になりたいと思う。

千葉真英
(宇都宮大学工学部、岩手県立大船渡高等学校卒)



被災体験は、不幸ではなく機会であると知った瞬間

同じ想い、志を共有し、互いに刺激を与え合える仲間に出会えたこと。僕らを応援してくれる心強い人達が大勢いるのだと気付けたこと。この2つが、今回僕が得た最も大きな収穫です。福島出身であることは悲しいことなのではなく、大きな機会なのだ、プログラムを通して確信できました。

菅野英那
(早稲田大学商学部、福島県立須賀川桐陽高等学校卒)





参加学生

大学スカラーシップ・プログラム参加者(新大学2年生)



今井友恵 (小林正忠特別奨学生)

慶應義塾大学法学部(岩手県立盛岡第一高等学校卒業)

この未曾有の大惨事を経験したからこそ得られた人に対する思いやりの心や共感力を持って人々に元気を与えられる、視聴者に寄り添ったアナウンサーになりたいと強く思うようになった。東北の生の声を発信し続け、何年かかっても必ず愛する故郷を取り戻し、自分たちこそが日本を引っ張っていくリーダーになること、それが支えて下さっている全ての方々への恩返しとなると、震災のことをより多くの人に発信し続けていきたいと考えている。



遠藤見倫 (松本大特別奨学生)

石巻専修大学経営学部(宮城県石巻北高等学校卒業)

震災で父と家を亡くし絶望の淵におかれる思いをしながらも、震災のことを多くの人に知ってもらいたいと、写真部の部長として活動した経験を活かして、被災地における津波の爪痕を写真に残しメディアを通して発信したという経験を持つ。震災を経験した者として、被災地の「今」を発信していきたいという意欲を持ち、未来においては「今」を「過去」にすることなく、生きている瞬間を心に刻み続けられるような活動をしていきたいと考えている。



小野寺 栄

早稲田大学商学部(仙台育英学園高等学校卒業)

震災により、気仙沼の家を失う。悲惨な震災が自らの人生の良い転機だったと思えるよう、震災を経験した自分たちだからこそできることを模索し、「社会貢献」の精神を持って世の中を良くするために積極的にアクションを起こしていきたいと考えている。将来は、国際機関における開発途上国の支援や国づくり、国際ビジネスなどに携わる、海外で活躍できる人材になることが夢。



加藤英介 (小林正忠特別奨学生)

慶應義塾大学環境情報学部(東陵高等学校卒業)

気仙沼で被災し、家を失くす。両親が経営していたホテルは避難所となり、大学生ボランティアと共に、被災者支援活動に参加する。震災半年後の9月には、東北被災学生代表として、夏季ダボス会議に参加し、東北の状況について世界のリーダーたちを前に発信。将来は、自らが被災者であるという立場を活かし、自分と同じような境遇の人たちの経済状況を十分に把握した上で町づくりをしていきたいと、地元気仙沼の復興に携わりたいと考えている。



菊池翔太 (三菱重工業特別奨学生)

東北学院大学法学部(岩手県立大船渡高等学校卒業)

震災直後、地域ボランティア活動に参加していた際に、震災から時間が経っていないにも関わらず、大船渡の人々が立ち止まることなく復興のために動き出そうとしている姿を見て、大船渡の強さを痛感する。将来は、「人のためになる仕事をしたい」と考えているが、大学生活中にその夢を具体化したいと、被災という経験を忘れずに、積極的に様々な活動へ参加しようと考えている。



菊地将大

筑波大学社会・国際学群(岩手県立高田高等学校卒業)

陸前高田市で被災し、両親を亡くす。高校では生徒会長としてリーダーシップを発揮、震災後には、第14代高校生平和大使としてスイスの国連欧州本部を訪問した。震災で世界より多くの支援が寄せられたことから国際連帯の重要性を感じ、世界に防災の必要性を発信していくことが日本の今後の使命であると考えている。将来の夢は、被災地の復興を先導する立場になること。特に、多くの人が職場を失い、経済的困難にあえぐ状況に強い危機感を覚え、雇用問題の解決に貢献したいと考えている。



倉本千邑 (三菱重工業特別奨学生)

明治薬科大学薬学部(岩手県立盛岡第一高等学校卒業)

震災で家を失ったが、母親や、地域の人々が復興に向けて頑張る姿を見て、自らも何らかの力になれるようになりたいと考えるようになった。震災を通じて、人々の健康を守る薬を届ける薬剤師という仕事の重要性を痛感し、薬剤師になるという夢がさらに確固たるものになった。薬剤師という夢を叶えるために日々勉強に励んでいる。今後、得られる知識やあらゆる人たちの経験、思いを社会貢献に活かせるよう頑張りたいと考えている。

参加学生

大学スカラーシップ・プログラム参加者(新大学2年生)



西城国琳

拓殖大学国際学部(宮城県気仙沼高等学校卒業)

中国・大連生まれ。中学校1年生の時に、母の再婚により来日。以来、南三陸町に住む。震災後、自分の故郷は南三陸町にあると確信し、日本国籍を取得。震災を通じて、「教育」「情報」の大切さを知り、アフリカの貧困地域で教育を普及させ、より多くの子どもたちが夢を実現できる社会作りをしたいと考え、アフリカにおいて人材養成を行う非営利団体を設立したいと考えている。一方で、愛する故郷である三陸の復興に貢献できるような活動にも携わりたいと思っている。



佐藤滉 (三菱重工業特別奨学生)

高崎経済大学地域政策学部(岩手県立盛岡第一高等学校卒業)

震災を経て、被災した人々の声が未曾有の大災害の生き証人の言葉として多くの人に伝わるのが、震災を風化させないための鍵であると考え、被災者の声を広く発信する伝道師としての役割を担いたいと考えている。将来は、東北の観光復興に携わることで、地域活性化や産業促進に貢献したいと考えている。そのために広い視野を持ちたいと、大学では留学し、グローバルに通用する信念と発言力をもった人材になることが夢。



千葉真英

宇都宮大学工学部(岩手県立大船渡高等学校卒業)

大船渡にて被災。津波によって母親と祖母を亡くし、家も流された。多くの命が犠牲になった中で自分は助かったという経験から、将来は地元の復興と、自然災害に備えた街づくりに貢献することが生き残った者の使命であると考えている。三陸沿岸地域の災害に強い街づくりに参加し、復興に関する事業を行う会社を立ち上げたいと考えている。



福田順美 (三菱重工業特別奨学生)

宮城大学看護学部(岩手県立高田高等学校卒業)

陸前高田で被災し、家を失くす。将来は、生まれ故郷である陸前高田の街に戻り、人々の笑顔を守るのできる保健師になることが夢。震災後、進学を諦めかけたこともあったが、もっと日本を、世界を知りたいと進学を決意。将来、保健師として陸前高田の街に貢献できるような人間になるべく様々な経験を積みたいと、大学生活を通して新しいチャレンジに取り組んでいきたいと考えている。



藤田真平

神奈川大学法学部(神奈川県立岸根高等学校卒業)

宮城県気仙沼で被災し、家を失ったため、神奈川県に避難、家族と離れて神奈川県で高校に通った。13年間続けてきた水泳が心の支え。震災後9月には、山口県で行われた国民体育大会で宮城県代表として出場し自己新記録で12位。大学進学後は全国大会に出場し、日本一の選手になるという夢を持っている。将来東北を担うリーダーになれるように成長していきたいと考え、将来は、復興のために地元・気仙沼に帰り、若者が出て行くのを減らせるような会社を同じ志を持つ仲間と共に立ち上げることが夢。



船越絵雅

早稲田大学文化構想学部(岩手県立宮古高等学校卒業)

震災で祖母や親戚を亡くす。震災後、自らにできることを考えた際に、「知る」ことの重要性を感じ、地元のラジオ局の災害FMの開設をボランティアスタッフとして手伝った。その体験から、情報を提供することで多くの人が様々な問題について考え、実践に移していく機会を作ることのできる職業としてアナウンサーを志す。東北および宮古地区の状況について幅広く発信することのできるアナウンサーになりたい。



マンスフィールド・デビッド宥雅

早稲田大学法学部(宮城県仙台第一高等学校卒業)

医師としてインドの農村医療に従事した父について幼少期をインドで過ごした経験を持ち、電気や水道のない貧困層の生活を目の当たりにする。今回の震災で、先進国が窮地に陥る状況を体験し、今回の被災経験を活かして世界全体のポリシーについて考え、国家の枠に囚われず、グローバルな問題の解決に取り組みたいと考えている。将来は米国の大学院に進学して法曹資格を取得し、法という枠組みから社会問題の解決に貢献したい。

参加学生

大学スカラーシップ・プログラム参加者(新大学2年生)



目黒妃呂美 (三菱重工業特別奨学生)

東北公益文科大学公益学部(福島県立相馬東高等学校卒業)

背後に迫りくる津波から逃れるために走っている最中に、通りがかりの人に車に乗せてもらうことができたために危機一髪で命拾いをしたという経験をもつ。震災で家を失い、父は失職。音楽大学に進学するという夢をあきらめ就職を考えましたが、将来は街づくり、地域活性化について学び東北復興を担う人材になるという新しい目標の実現のためにスカラーシップを得て進学を決意。東北の被災地が早く復興するように仲間たちと力を合わせていきたい。

東北未来フェローズ・プログラム2013参加者(新大学1年生)



石川玲央

群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部(福島県立湯本高等学校卒業)

震災で自宅が全壊。また、原発事故の影響で、故郷に対する風評被害に傷つく中、世界中からの支援を受け、精神的・体力的に弱っていた中で逆境から立ち上がる勇気を与えられた。震災で長期間に渡る断水を経験したことで水の重要性を改めて知り、途上国の水問題に関心を持つようにもなった。将来は、途上国でのインフラ整備に携わる仕事をしたい。



小川彩加

米国・Leelanau School(岩手県立大槌高等学校卒業)

津波で家族全員を亡くし、生まれ育った家を失う。ルース駐日米国大使との出会いをきっかけに、「家族の中で自分だけが生き残ったからには、悔いのない人生を送りたい」と、かねてから関心のあった海外留学を決意。震災後、自身に与えられた多くの機会への感謝から、将来は、自らも人に希望やチャンスを与えられる人間になりたいと、世界的に活躍できるファッションデザイナーを目指して、「ビヨンドトゥモロー高校留学プログラム」を通じ、米国ミンガン州の全寮制高校に留学している。2013年6月卒業予定。



菅野英那

早稲田大学商学部(福島県立須賀川桐陽高等学校卒業)

震災の衝撃から、無力感を感じたこともあったが、それがあったからこそ感謝の気持ちや行動力も得られたと感じる。「被災地復興のために若者がすべきことは、自分達が夢を叶えて、世界で活躍すること。そうすることで東北に大きな活力を生み出せる」と考え、以前から関心のあったIT分野で起業することを決意。インターネットを通じて現実の世界に大きな影響を与えるサービスを作りたいと考えている。



北田亜央衣

帝京大学医療技術学部(岩手県立釜石高等学校卒業)

津波で祖父を亡くし、自宅は全壊。病院で祖父に最後までついてくれた看護師や、被災直後もずっと職場の老人ホームで働き続けていた母の存在から、看護師になって社会に貢献することで、支援してくれた人への恩返しをしようと思った。病状緩和につながる精神面の管理ができる看護師を目指して進学予定。震災後、故郷である大槌町の訪問看護が減少したという状況に課題意識を感じ、大学では訪問看護と災害看護を繋げた研究をし、将来は看護のフロントランナーになりたいと考えている。



木村拓哉

東京大学教養学部(岩手県立盛岡第一高等学校卒業)

沿岸部の名取市閉上へ行き、見慣れた土地が一変してしまったことへの喪失感がきっかけで復興への貢献を考えるようになった。被災地支援のイベントで漁協の方達の歩みだそうとする強さに触れ、思いを持つ人を後押ししたいと思うようになった。将来の目標は、起業して地域復興を支え、東北の経済全体を発展させること。東北の海や山の特産品を活かした食産業の発展を実現し、他地域に移り住んだ地元の人たちが帰ってきたいと思えるような魅力的な社会福祉制度の整備などにも取り組むことのできる人材になりたいと考えている。

参加学生

東北未来フェローズ・プログラム2013参加者(新大学1年生)



穀田龍二

東北大学法学部(宮城県気仙沼高等学校卒業)

震災後、電気・水道のライフラインが長期間ストップし、地域で協力しながら物の貸し借り、情報共有や治安維持をして生活していく中で過ごした。震災後、徐々に地域復興へ気運が高まり、単独で克服できないことを集団で実現することができることを目の当たりにし、復興には被災地内での協力が不可欠だと考える。若者の地元離れが復興の妨げになるという問題意識から、故郷である気仙沼で漁業分野の会社を興すことが夢。



佐久間楓

東北芸術工科大学芸術学部(石巻市立女子高等学校卒業)

津波で最愛の母を亡くす。震災直後の絶望の中、国内外からの支援が届いたことに感謝し、支援してくれた人々に恩返しをしたいという気持ちが強まった。震災後、ロシアを訪問した際、被災地で救助活動をした方々に挨拶をしたが、思いを伝える難しさを痛感。「もう一度海外に向けてきちんと伝えたい」と思うようになった。将来は震災についての体験や思いをインタビューして本にまとめ震災について語り継ぐ役割を担いたいと考えている。



佐々木沙耶

お茶の水女子大学文教育学部(岩手県立高田高等学校卒業)

津波により、自宅が全壊。友人や恩師を亡くす。震災を通して、今立ち上がらなければいけないのは若者であり、誰かがやるからいいのではなく、自分が立ち上がらなくてはと感じた。震災後の状況で、女性の立場や役割についての問題意識が高まり、女性の声を伝えられるジャーナリストを志すようになった。震災後、高校生平和大使に選出され、スイスを訪問。その際に世界YWCAIにて世界的に活躍する女性たちと交流し、自分も国際的に活躍できる女性ジャーナリストになりたいと考えている。



佐藤主樹

東北大学文学部(宮城県仙台第二高等学校卒業)

震災を通して、過去の地震や津波の被害にまつわる伝承があったにも関わらず、それが地域で認識されていなかったために被害が大きくなったことを知り、正しい知識の伝承が可能であったならば、甚大な被害は防げたのではないかと感じた。その体験から、過去に学ぶことは未来への重要な道標になりうると思い、将来は人文学を研究し、歴史の教訓を社会的に有効活用できるような取り組みを目指したいと考えている。中学時代に日中交流行事で中国へ訪れた経験を活かし、グローバルな視野を培えるような勉強をしたいと考えている。



佐藤慎

岩手医科大学医学部(岩手県立大船渡高等学校卒業)

震災で幼少期からの友人を失い、自宅も失ったが、震災後、助け合いや人と人とのつながりに感謝する機会を得た。その経験から、地域コミュニティの重要性を痛感し、今後は自分達の世代が地域の一体感作りを担いたい。昔から国境なき医師団に憧れて医師を志していたが、震災を経て、地域での被災直後の医療従事者の不足や今も県外からの人材に頼っている状況を知り、地元で総合医療科を開設し、地域医療に貢献したいと考えるようになった。



高橋亜弓

上智大学外国語学部(仙台白百合学園高等学校卒業)

震災時はカナダに留学していた。現地の人々に故郷の被害について伝えたと、学校で募金活動を始めてくれたことに心を動かされ、自らが積極的に「伝える」ことの重要性を知る。帰国後、南三陸でのボランティア活動に参加し、その経験を基に、英語スピーチコンテストで東北被災地の現状とボランティア活動の意義について発信した。将来はJETROで働き、日本と外国が互いに支えあい、発展していけるような仕組み構築に貢献できる人材になりたい。

参加学生

東北未来フェローズ・プログラム2013参加者(新大学1年生)



田村 葵

福島大学人文社会学群(福島県立相馬高等学校卒業)

津波で友人を亡くし、ライフラインも全て止まった経験から、当たり前を感じていたことは当たり前ではないのだと痛感し、「当たり前が当たり前ではない」人々が世界に大勢いると思えるようになった。そして、紛争や貧困によって生命の危険に脅かされながら生きる人々がいるという世界の問題の解決に貢献できる人間になりたいと考えている。また、震災後のメディア報道に触れるうち、法制度や政治に強い関心を抱くようになった。大学では法学や政治学を学び、将来は、世界の「当たり前」がない地域の人々の役にたてる人間になることが夢。



白河 榮

東北大学文学部(福島県立会津学鳳高等学校卒業)

震災を経て、福島を愛する者として、そしてたまたま恵まれた環境にいる者として、自分に何が出来るかを考えるようになった。震災後、6歳まで住んでいた韓国を訪問した際に、原発事故に対する祖国の考え方に触れ、情報格差、異なる価値観を知る。大学では文学を研究し、より多くの人に日本のことを伝え、人の心を動かせる人材として日韓の架け橋となり、震災の情報を正しく伝えていきたいと思うようになった。そして、日韓関係の改善に尽力できる人材となることが夢。

高校留学プログラム参加者



菅原 彩加 (ロバート・アラン・フェルドマン特別奨学生)

スイス・Leysin American School(仙台育英学園高等学校出身)

石巻市にて被災。津波によって母、祖母、曾祖母を失う。震災から6ヶ月後、中国にて開催された夏季ダボス会議に参加し、世界のリーダーに向けて自身の経験を伝えた。将来は、自分が体験したような辛い思いをしている子供のために働きたい。また、震災後に日本に支援をしてくれた国々への恩返しとして、国際ボランティアにも取り組みたい。

合唱

ハジマリノウタ～遠い空澄んで～

遠くに見えた街並み いつの日にか誓った景色と同じ
怯えて立てなくなっても 涙に滲む明日を教えてくれる

君からもらった言葉 僕の生きる意味を照らしてくれた
「もう少し強くなれたら…」なんて思ってみても仕方ないよ

「夢の途中」 そう気付いたら なんだかちょっと楽になって
答えなど無くていいんだよ 僕の頬は少し朱に染まる

遠く見えた空は澄んでいて 泡沫の日々に迷わんとした
揺るぎないこの胸の真ん中の想いを託して 想いを信じて
僕はただ明日を見て歩こう たとえそこに願い届かずとも
変わらないあの日の言葉だけを この手に抱えて この手に抱えて

君とね 出逢ったことが見えなくなった場所を示してくれた
そうして解り合えたよ 僕も君も同じ弱さを持つてる

どうしてなんだ?みんな抱えてる怖さや不安を隠したりして
「強くない」ってそう言い切ったら 暗く濁った闇に灯り灯る

伝えたいことが溢れてきて あの空の向こうへ流れてゆく
ぎこちない言葉でしかないけど 今伝えたくて 今届けたくて

連綿とゆく時間の中で 僕は確かにここで呼吸(いき)をする
柔らかい陽の光を浴びれば また目を覚まして また歩き出せる

僕が生きた「証」を残そう それをいつの日か「夢」と名付けよう
つつましくも意味の在る「証」を 意味在る「夢」だと 確かな「夢」だと

僕は「今」を信じて歩こう たとえそこに祈り叶わずとも
生まれゆく全ての言葉たちを この手に抱えて この手に抱えて

協力団体

ビヨントゥモロー スプリングプログラム2013は、東日本大震災復興支援財団のご支援によって運営されました。ビヨントゥモローの事業は、多くの方々からのご支援によって支えられています。皆様のご支援・ご協力に、感謝申し上げます。

みんなで がんばろう 日本 ●

ビヨントゥモロー ストラテジック・パートナー

ビヨントゥモローの活動に1000万円相当以上のご寄付をいただいた企業・団体

- ジャパン・ソサエティー
- 武田薬品工業株式会社
- バンクオブアメリカ・メリルリンチ
- 米日カウンシル
- 三菱重工業株式会社

ビヨントゥモロー スカラーシップ・パートナー

奨学生枠の提供をいただいた教育機関・教育団体

- Leelanau School(米国・ミシガン州)
- Leysin American School (スイス・ヴォー州)
- St. George's School (スイス・ヴォー州)
- St. Michael's College (英国・ウスターシャー州)
- St. Timothy's School (米国・メリーランド州)

ビヨントゥモロー プロジェクト・パートナー

ビヨントゥモローの活動に100万円相当以上のご寄付をいただいた企業・団体

- 株式会社アルビオン
- 住友化学株式会社
- 公益財団法人 東日本大震災復興支援財団
- 米日財団
- 株式会社ポイント
- ポストン東北緊急支援ファンド
- ロート製薬株式会社

ビヨントゥモロー スカラーシップ・パトロン

ビヨントゥモロー・スカラーシップ・プログラムに奨学金枠をご寄付いただいた個人の方々

- 大塚 太郎様
- 小林 正忠様
- 佐藤 輝英様
- 船橋 力様
- 本庄 竜介様
- 松本 大様
- ロバート・アラン・フェルドマン様

ビヨントゥモロー プロボノ・パートナー

ビヨントゥモローの活動に商品・サービスの形でご寄付・ご協力をいただいた企業・団体

- 株式会社アゴス・ジャパン
- あずさ監査法人
- 株式会社海外教育コンサルタンツ
- 株式会社ガリバーインターナショナル
- キンコーズ・ジャパン株式会社
- コニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社
- 全日本空輸株式会社
- 株式会社リクルートホールディングス

その他ご寄付をいただいた企業・団体の皆さま

- 株式会社ウェルネス・アリーナ

この他にも、多くの方々にご支援・ご協力をいただいております。深く御礼申し上げます。
※上記は2012年度ご支援・ご協力頂いております皆様をご掲載させて頂いております。

ビヨンドトゥモロー とは



概要

一般財団法人 教育支援グローバル基金は、政治・行政・企業・NGO・メディアなど多方面にて活躍するリーダーたちにより設立された財団法人です。「ビヨンドトゥモロー」は、東日本大震災で被災した若者がグローバルに活躍するリーダーへの成長を支援することを目的とした事業として、包括的なリーダーシップ支援事業を実施しています。2011年9月には、「夏季ダボス会議ジュニア・リーダーズ・プログラム」、10月には「東北未来リーダーズサミット」、2012年8月には「TOMODACHIサマー2012 ビヨンドトゥモロー米国プログラム」を開催、被災地からリーダー候補を輩出するための取り組みを行っています。また、大学進学者を対象として奨学金及びリーダーシップ教育を提供する「ビヨンドトゥモロー・大学スカラーシップ・プログラム」や「ビヨンドトゥモロー・東北未来フェローズ・プログラム2013」、高校生を対象として海外のボーディングスクールへの留学機会を提供する「高校留学プログラム」を運営しています。

特徴

志ある学生の夢の実現を応援し、金銭的な支援だけでなく対話を通して大志の実現を助け、グローバルな視野を持つ人材を育成します。また、今回の逆境を乗り越えて、自らがより主体的に社会に関わることができるような機会を提供することにより、他者に対する共感力をもつ人材の育成を目指します。

内容

1. 奨学金プログラム
東日本大震災という困難を経験した若者こそ、今後、世界や日本、そして東北復興のために行動するリーダーになる資質を有していると信じ、進学のための奨学金(返済不要)を給付しています。
 - 大学スカラーシップ・プログラム
 - 東北未来フェローズ・プログラム2013
 - 高校留学プログラム
2. リーダーシップ・プログラム
東北被災地からリーダーとしての活躍を志す学生たちの視野を広げ、人間的成長を促すリーダーシップ育成プログラムを開催しています。その領域は、世界・日本・地域へと広がり、広い視野と強い共感力をもって社会革新の原動力となる人材の輩出を目的としています。



一般財団法人 教育支援グローバル基金
www.beyond-tomorrow.org

〒150-0041
東京都渋谷区神南1-5-7
APPLE OHMIビル5階 ETIC. 内
info@beyond-tomorrow.org

©一般財団法人 教育支援グローバル基金

撮影協力: 神戸芸術工科大学 infoGuild